

令和7年度第4回三重県公立高等学校協議会より

1 協議の概要

令和8年2月16日に開催した第4回三重県公立高等学校協議会（以下、「公私協」という。）において、公立と私立の募集定員の公私比率等について検討する部会の設置について協議を行った。

会議は一部非公開とし、令和8年度の私立高校の募集定員総数が、公私協における協議結果を115人超過する3,680人となったことについて説明があった。

部会の委員構成について、公立と私立のバランスに関する意見があったため、委員の追加も含めて事務局で検討することとして、部会の設置が了承された。

部会における協議事項は、令和8年度中に令和10年度以降の公私比率等について方向性を取りまとめることとした。また、令和9年度募集定員の策定の方向性についても、部会において協議することとした。

2 主な意見（部会への申し送り事項）

（大切にしたいこと）

- 子どもたちの選択肢を維持し、子どもたちに豊かな学びを提供するという「子どもファースト」で協議してもらいたい。

（協議内容について）

- 提言にある「公私が協調して協議を行って募集定員総数を策定する」という前提が崩れた以上、令和10年度以降の提言を策定するにあたっては、これまでの策定方法を根本から見直す必要があるのではないか。
- 令和9年度募集定員の策定の方向性についても、令和9年度までの提言に沿って策定することが難しい状況となったため、さまざまな立場の委員が参画する部会で広く意見を聞く必要があるのではないか。

（協議の進め方）

- 各都道府県で公私比率の設定方法や募集定員策定のプロセスはさまざまであることから、他府県の状況を資料として提示し協議を進めてはどうか。
- 少子化が加速する中、高校再編にはさまざまな意見があることから、こうした声に耳を傾けながら議論を進めてほしい。